

定点把握疾患の届出状況(令和6年1月～6月)

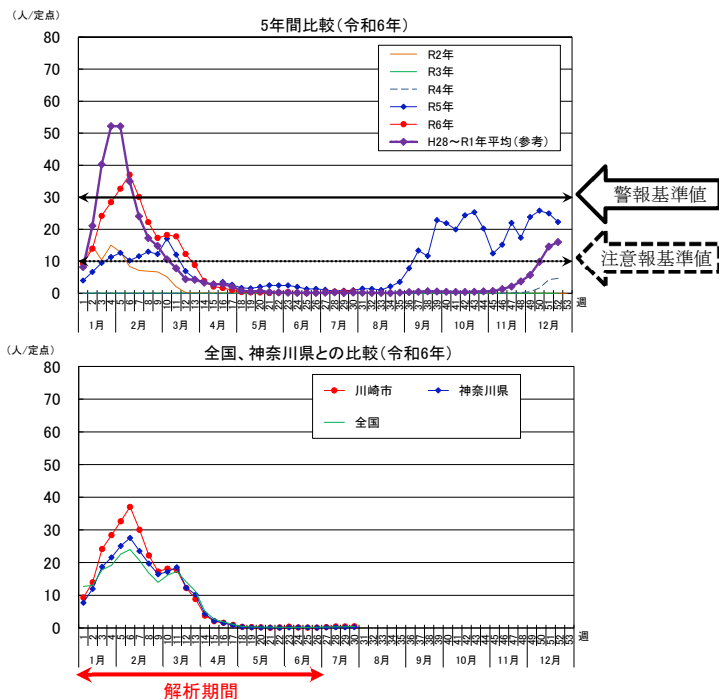
<インフルエンザ／COVID-19定点対象疾患>

インフルエンザ(警報基準値:定点当たり30人、注意報基準値:定点当たり10人)

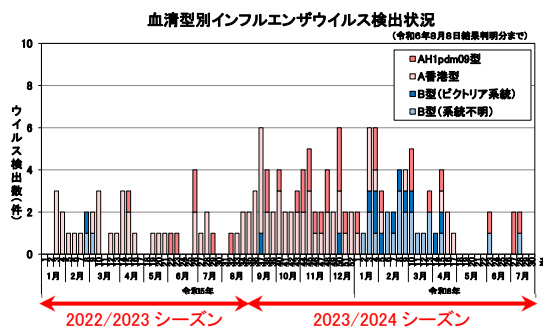
※令和2年～令和5年は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、他疾患の報告数が通常と異なる傾向であったため、平成28年から令和元年の平均と比較を行った。

【川崎市】

今期(令和6年1月～6月)は定点当たり10.86人の報告があり、新型コロナウイルス感染症の流行前と比較すると0.93倍で、例年並みのレベルで推移しました。2023/2024シーズンは、前シーズンから流行期が継続したまま令和5年第37週(9月11日～9月17日)に定点当たり患者報告数が13.31人となり、流行発生注意報基準値を超え、第6週(2月5日～2月11日)に流行のピーク(定点当たり37.03人)となりました。その後報告数は減少し、第17週(4月22日～4月28日)に定点当たり1.00人を下回り、非流行期となりました。なお、7月中旬から下旬にかけて、高津区、宮前区、川崎区、多摩区において地域流行がみられましたが、その後は減少しました。

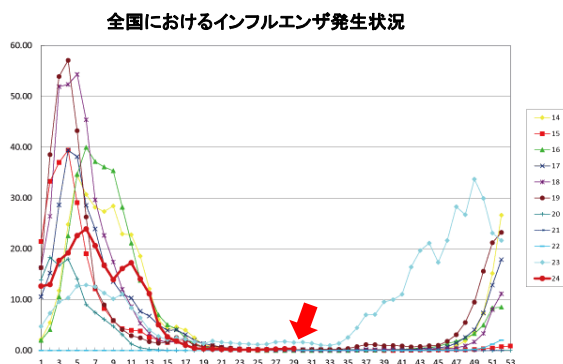


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。2023/2024シーズンは、A香港型が48件、AH1pdm09型が28件、B型(系統不明)が21件、B型(ビクトリア系統)が12件検出されました。



【全国及びその他】

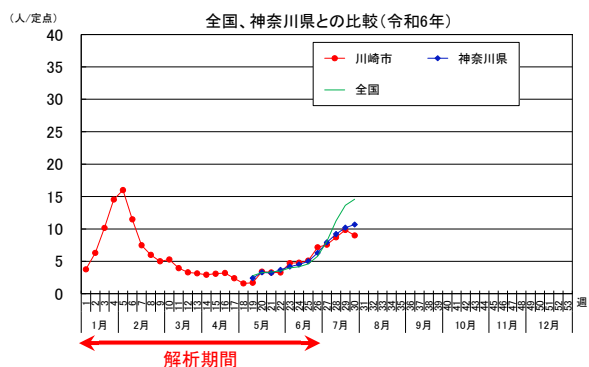
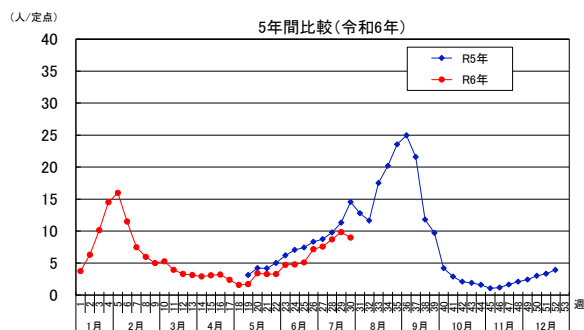
全国的には例年よりやや低いレベルで推移しました。



新型コロナウイルス感染症

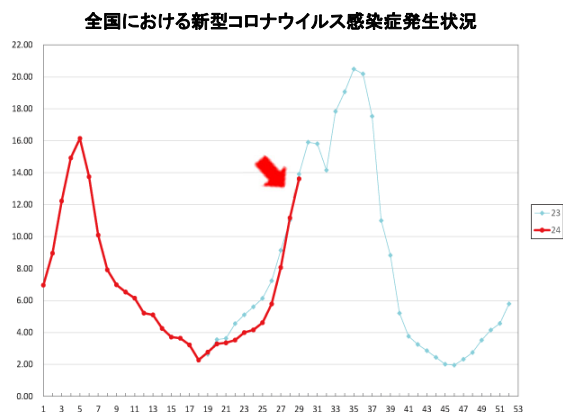
【川崎市】

今期は定点当たり 5.49 人の報告がありました。年当初から患者報告数が増加し、第 5 週（1 月 29 日～2 月 4 日）に流行のピーク（定点当たり 15.98 人）となった後、報告数は減少しましたが、第 20 週（5 月 13 日～5 月 19 日）以降再び患者報告数が増加し、第 29 週（7 月 15 日～7 月 21 日）には定点当たり 9.84 人となりました。



【全国及びその他】

全国的にも増加がみられました。



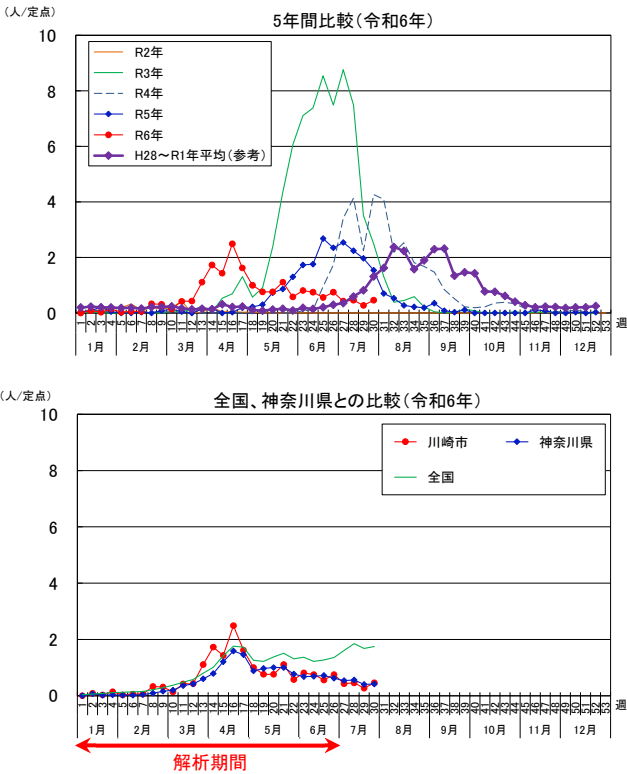
＜小児科定点対象疾患＞

※令和 2 年～令和 5 年は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、他疾患の報告数が通常と異なる傾向であったため、平成 28 年から令和元年の平均と比較を行った。

RSウイルス感染症

【川崎市】

今期は定点当たり 0.68 人の報告があり、新型コロナウイルス感染症の流行前と比較すると 3.73 倍で、例年よりかなり高いレベルで推移しました。第 11 週（3 月 11 日～3 月 17 日）以降患者報告数が増加し、第 16 週（4 月 15 日～4 月 21 日）に流行のピーク（定点当たり 2.49 人）となりましたが、その後は減少しました。

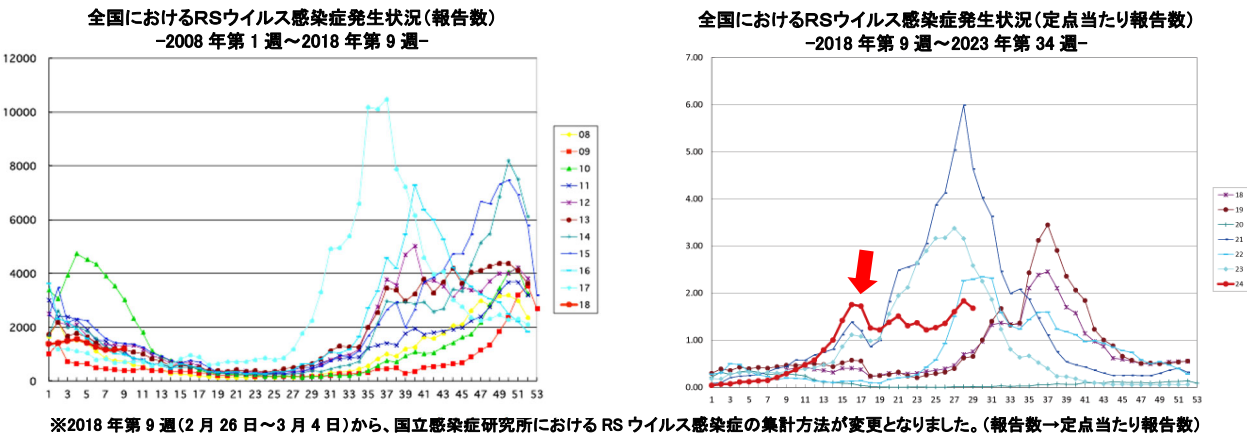


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
高津区	男	4	R6.3.7	鼻咽頭ぬぐい液	RSウイルス A 型
幸区	男	1	R6.3.12	鼻汁	RSウイルス B 型
幸区	男	2	R6.3.29	鼻腔ぬぐい液	RSウイルス A 型
幸区	女	5 か月	R6.4.15	鼻腔ぬぐい液	RSウイルス A 型
幸区	男	1	R6.7.1	鼻汁	RSウイルス B 型

【全国及びその他】

全国的には例年よりやや高いレベルで推移しました。



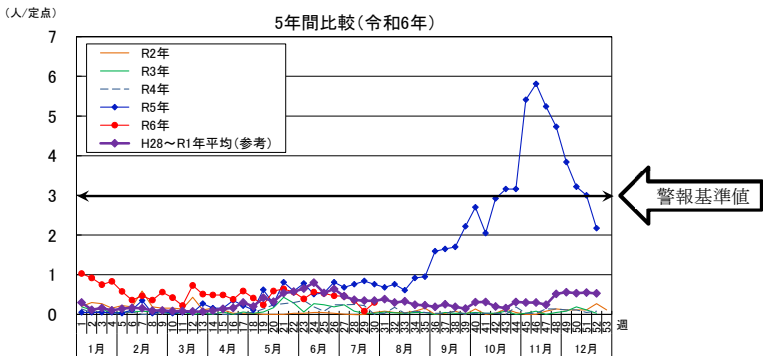
咽頭結膜熱(警報基準値:定点当たり3人)

【川崎市】

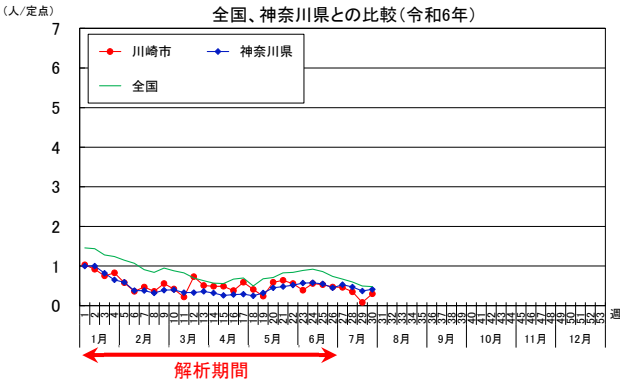
今期は定点当たり 0.54 人の報告があり、新型コロナウイルス感染症の流行前と比較すると 2.00 倍で、例年より高いレベルで推移しました。

今期、流行発生警報基準値 (3) を超えた週は宮前区で第 1 週でした。

5年間比較(令和6年)



全国、神奈川県との比較(令和6年)



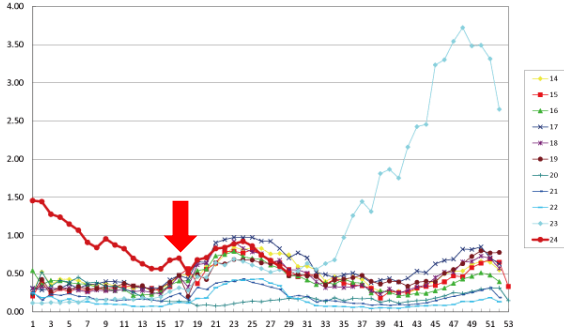
なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
高津区	男	1	R6.5.16	鼻咽頭ぬぐい液	ヒトアデノウイルス 2 型
高津区	女	1	R6.5.24	鼻咽頭ぬぐい液	陰性

【全国及びその他】

全国的にも例年より高いレベルで推移しました。

全国における咽頭結膜熱発生状況

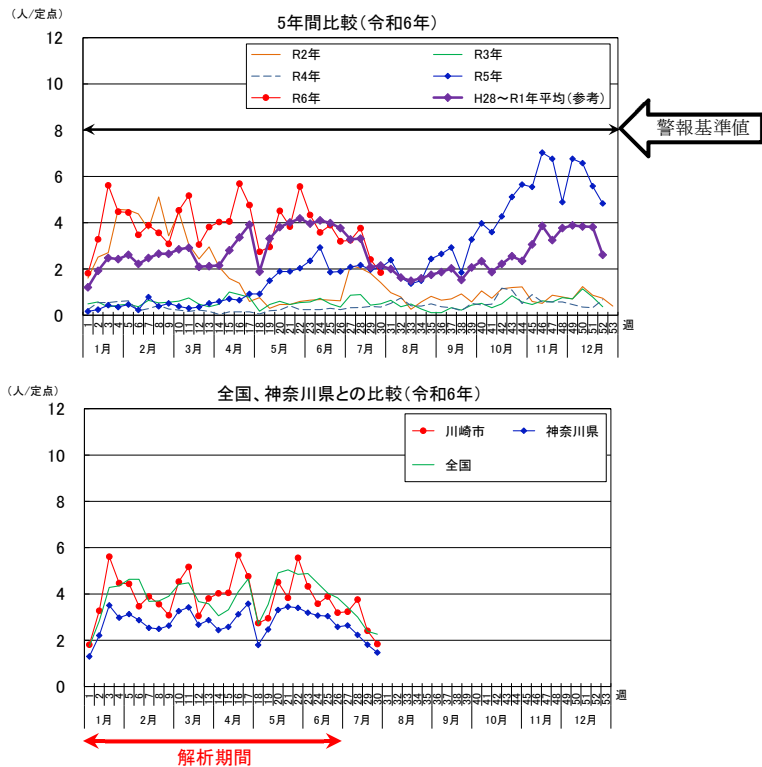


A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(警報基準値: 定点当たり 8 人)

【川崎市】

今期は定点当たり 3.98 人の報告があり、新型コロナウイルス感染症の流行前と比較すると 1.36 倍で、例年よりやや高いレベルで推移しました。

今期、流行発生警報基準値 (8) を超えた週は川崎区で第 9 週～第 11 週、第 14 週及び第 16 週、高津区で第 3 週、第 5 週、第 8 週、第 10 週、第 11 週、第 16 週及び第 22 週、宮前区で第 22 週でした。

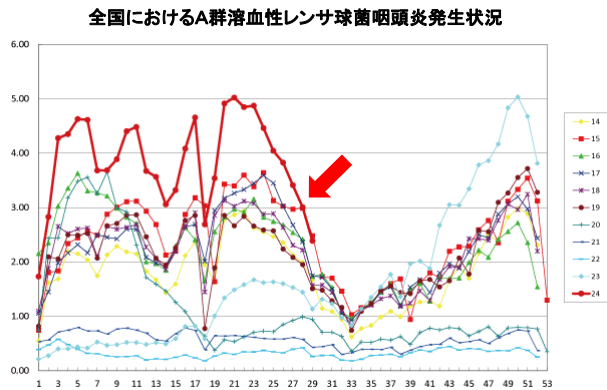


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
中原区	女	4	R6.1.24	咽頭ぬぐい液	A 群溶血性レンサ球菌 T1
高津区	男	14	R6.2.22	鼻咽頭ぬぐい液	不検出
宮前区	女	17	R6.3.4	咽頭ぬぐい液	A 群溶血性レンサ球菌 T 型別不能
中原区	男	5	R6.3.25	咽頭ぬぐい液	A 群溶血性レンサ球菌 T1
宮前区	男	48	R6.3.29	咽頭ぬぐい液	A 群溶血性レンサ球菌 T25
高津区	女	4	R6.4.15	咽頭ぬぐい液	A 群溶血性レンサ球菌 T1
高津区	女	3	R6.4.15	咽頭ぬぐい液	不検出
中原区	男	6	R6.5.15	咽頭ぬぐい液	A 群溶血性レンサ球菌 T1
宮前区	女	33	R6.5.30	咽頭ぬぐい液	A 群溶血性レンサ球菌 T 型別不能
中原区	女	3	R6.6.4	咽頭ぬぐい液	A 群溶血性レンサ球菌 T 型別不能
中原区	男	6	R6.7.2	咽頭ぬぐい液	A 群溶血性レンサ球菌 TB3264

【全国及びその他】

全国的には例年より高いレベルで推移しました。

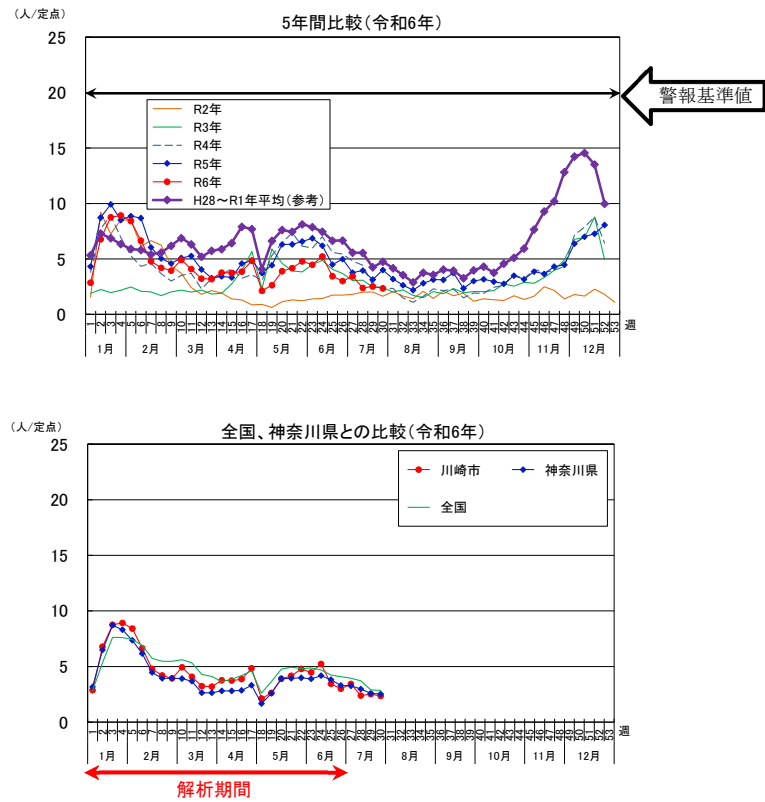


感染性胃腸炎(警報基準値:定点当たり 20 人)

【川崎市】

今期は定点当たり 4.63 人の報告があり、新型コロナウイルス感染症の流行前と比較すると 0.71 倍で、例年よりやや低いレベルで推移しました。

今期、流行発生警報基準値 (20) を超えた週はありませんでした。

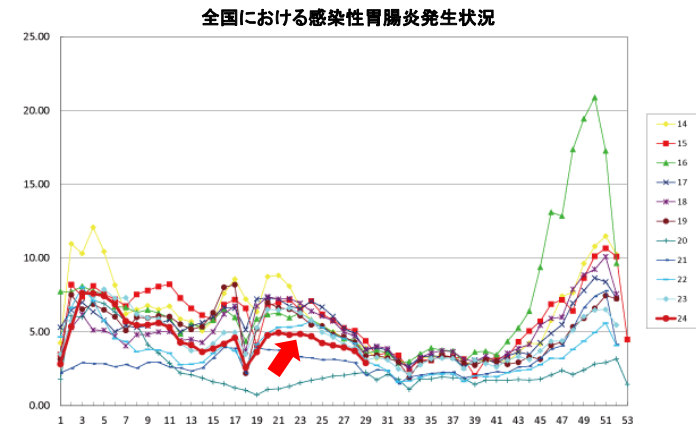


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果(ウイルス)	検査結果(細菌)
幸区	男	7	R6.1.29	直腸ぬぐい液	陰性	陰性
幸区	女	13	R6.2.2	直腸ぬぐい液	ノロウイルス GⅡ.4	陰性
幸区	男	10	R6.3.5	直腸ぬぐい液	陰性	カンピロバクター・ジェジュニ
高津区	男	5	R6.3.22	便	陰性	陰性
高津区	女	4	R6.4.2	便	ノロウイルス GⅡ.4	陰性
高津区	男	11	R6.4.22	便	ノロウイルス GⅡ.7	陰性
高津区	男	8	R6.5.16	便	ノロウイルス GⅡ.7	陰性

【全国及びその他】

全国的にも例年よりやや低いレベルで推移しました。

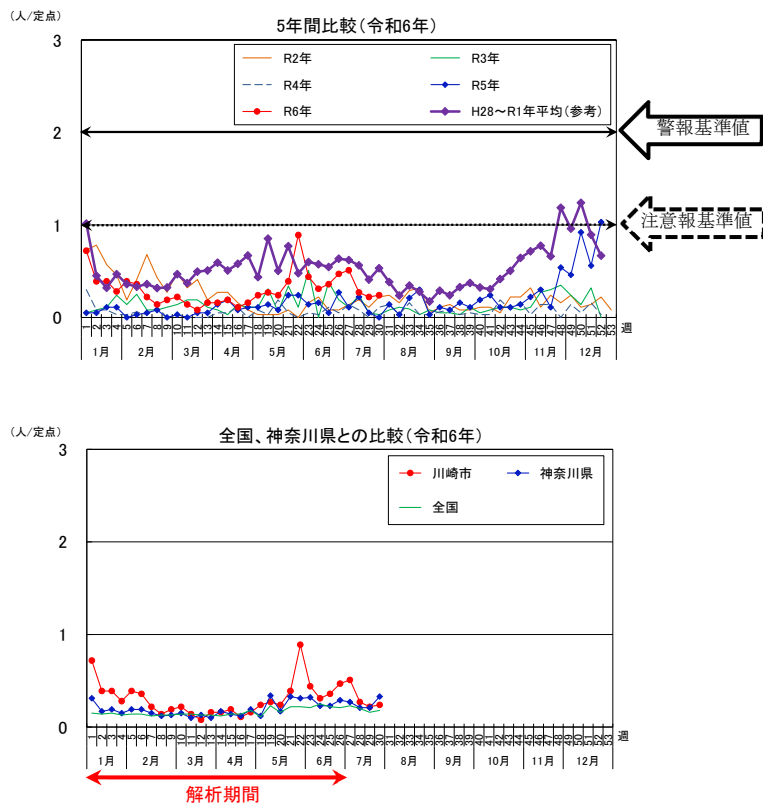


水痘(警報基準値:定点当たり2人、注意報基準値:定点当たり1人)

【川崎市】

今期は定点当たり 0.30 人の報告があり、新型コロナウイルス感染症の流行前と比較すると 0.58 倍で、例年よりやや低いレベルで推移しました。第 22 週（5 月 27 日～6 月 2 日）に川崎区において患者報告数が増加しましたが、その後は徐々に減少しました。

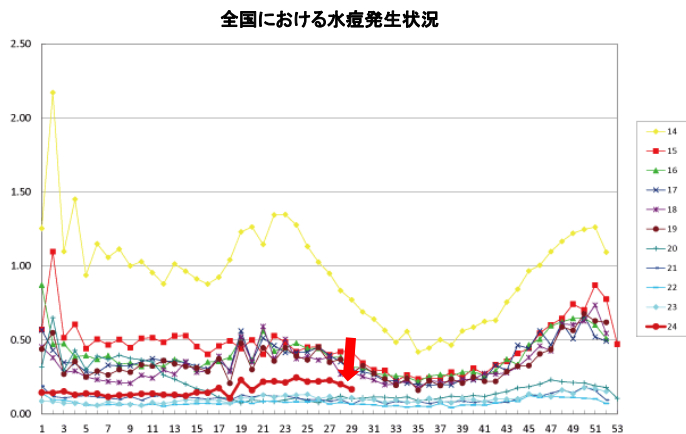
今期、流行発生警報基準値（2）を超えた週は、宮前区で第 1 週でした。流行発生注意報基準値（1）を超えた週は、川崎区で第 22 週及び第 23 週、幸区で第 21 週、宮前区で第 2 週～第 5 週及び第 22 週、麻生区で第 26 週でした。



なお、病原体定点からの検体の提供はありませんでした。

【全国及びその他】

全国的には例年より低いレベルで推移しました。

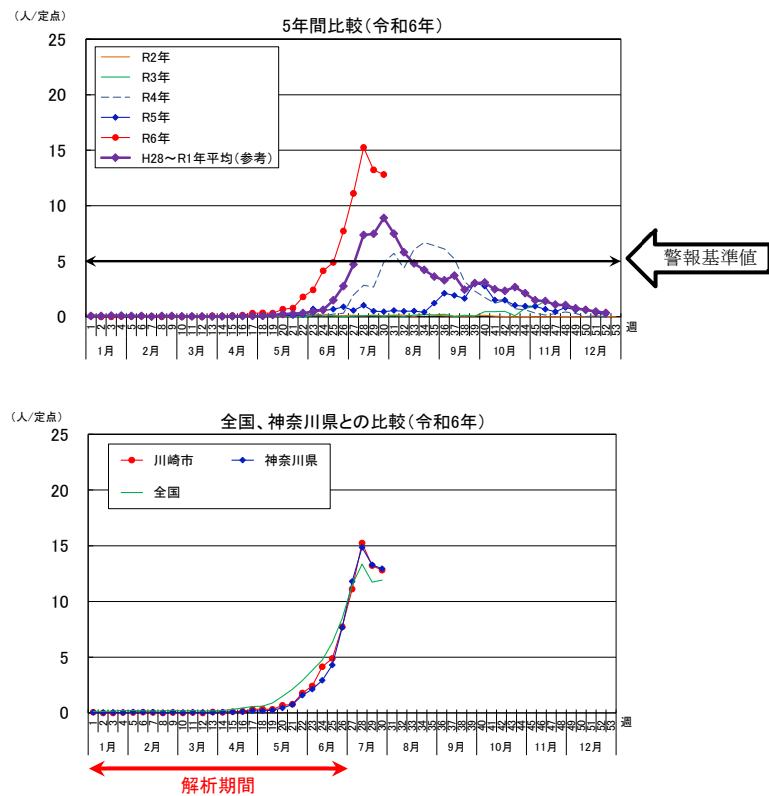


手足口病(警報基準値:定点当たり 5 人)

【川崎市】

今期は定点当たり 0.92 人の報告があり、新型コロナウイルス感染症の流行前と比較すると 3.17 倍で、例年よりかなり高いレベルで推移しました。第 20 週（5 月 13 日～5 月 19 日）以降徐々に報告数が増加し、第 26 週（6 月 24 日～6 月 30 日）に定点当たり患者報告数が 7.72 人となり、流行発生警報基準値を超え、第 28 週（7 月 8 日～7 月 14 日）には定点当たり 15.24 人と流行のピークとなりましたが、その後報告数は減少しました。

今期、流行発生警報基準値（5）を超えた週は、川崎区で第 25 週及び第 26 週、幸区で第 23 週～第 26 週、高津区で第 25 週及び第 26 週、宮前区で第 26 週、多摩区で第 24 週及び第 26 週でした。

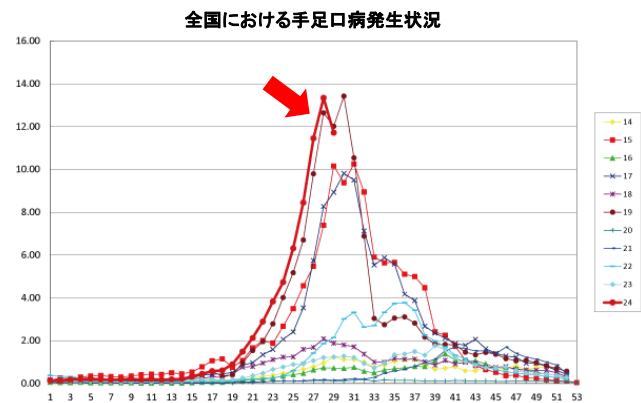


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
高津区	女	1	R6.6.3	咽頭ぬぐい液	パラインフルエンザウイルス 3 型
高津区	女	11 か月	R6.6.24	咽頭ぬぐい液	コクサッキーウイルス A6 型
高津区	男	2	R6.6.25	咽頭ぬぐい液	コクサッキーウイルス A6 型
高津区	女	1	R6.7.16	鼻咽頭ぬぐい液	コクサッキーウイルス A6 型
宮前区	女	25	R6.7.19	咽頭ぬぐい液	コクサッキーウイルス A6 型
高津区	女	3	R6.7.29	咽頭ぬぐい液	コクサッキーウイルス A6 型
高津区	男	1	R6.7.30	咽頭ぬぐい液	コクサッキーウイルス A6 型

【全国及びその他】

全国的には例年より高いレベルで推移しました。

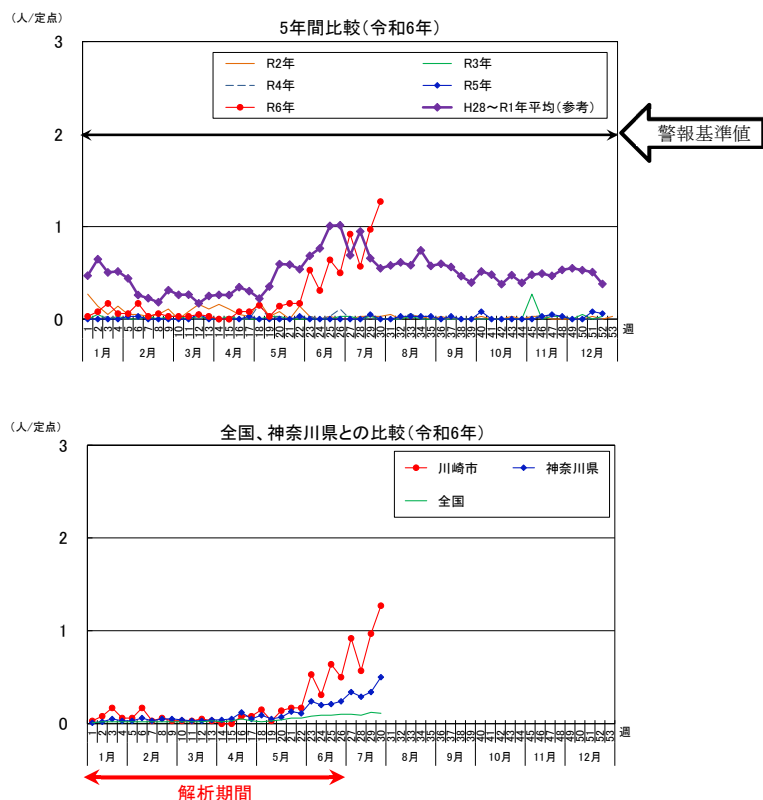


伝染性紅斑(警報基準値:定点当たり2人)

【川崎市】

今期は定点当たり 0.14 人の報告があり、新型コロナウイルス感染症の流行前と比較すると 0.32 倍で、例年より低いレベルで推移しました。年当初から例年より低いレベルで推移していましたが、第 23 週(6月3日～6月9日)以降報告数が大幅に増加し、第 30 週(7月22日～7月28日)に定点当たり 0.81 人と流行のピークとなった後、報告数は減少しました。

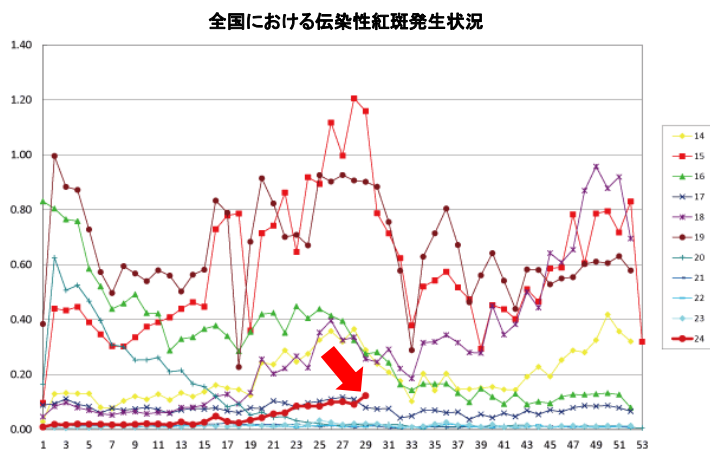
今期、流行発生警報基準値(2)を超えた週は宮前区で第 23 週でした。



なお、病原体定点からの検体の提供はありませんでした。

【全国及びその他】

全国的には例年よりかなり低いレベルで推移しました。

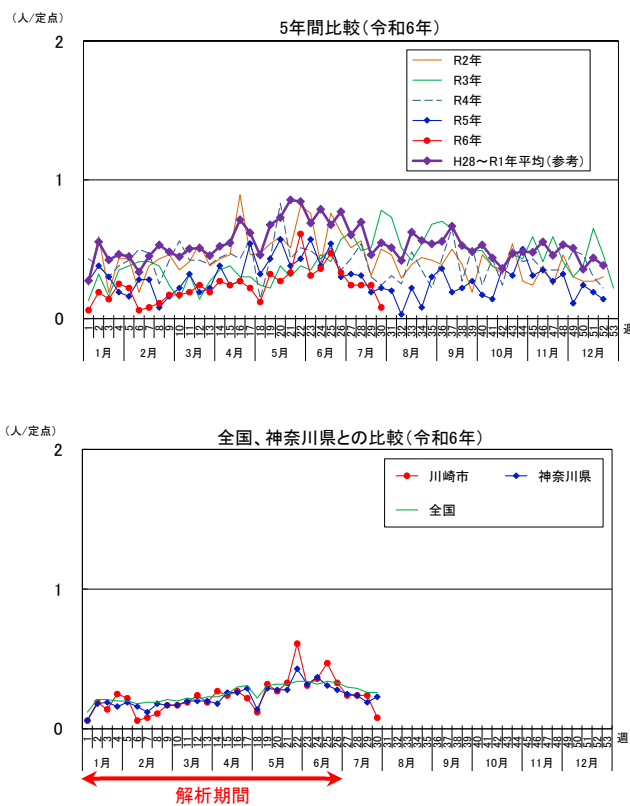


突発性発しん

【川崎市】

今期は定点当たり 0.24 人の報告があり、新型コロナウイルス感染症の流行前と比較すると 0.42 倍で、例年より低いレベルで推移しました。

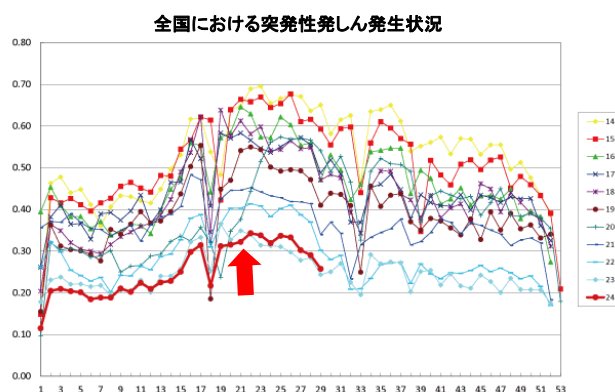
また、年齢階級別では 1 歳以下が 77.3%を占めていました。



なお、病原体定点からの検体の提供はありませんでした。

【全国及びその他】

全国的にも例年より低いレベルで推移しました。

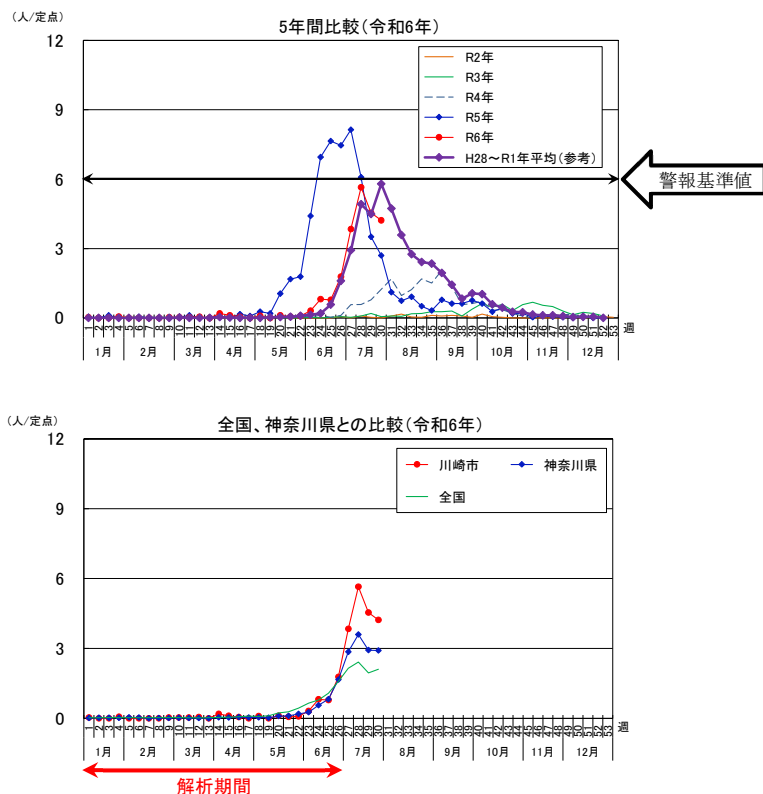


ヘルパンギーナ(警報基準値: 定点当たり 6 人)

【川崎市】

今期は定点当たり 0.18 人の報告があり、新型コロナウイルス感染症の流行前と比較すると 1.60 倍で、例年より高いレベルで推移しました。第 23 週（6 月 3 日～6 月 9 日）以降報告数が増加し、第 28 週（7 月 8 日～7 月 14 日）に流行のピーク（定点当たり 5.65 人）となった後、報告数は減少しました。

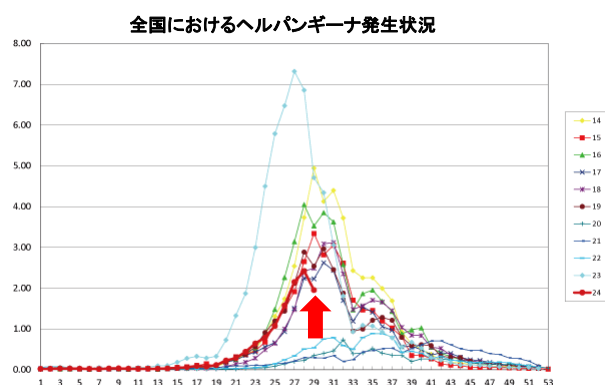
今期、流行発生警報基準値（6）を超えた週はありませんでした。



なお、病原体定点からの検体の提供はありませんでした。

【全国及びその他】

全国的には例年並みのレベルで推移しました。

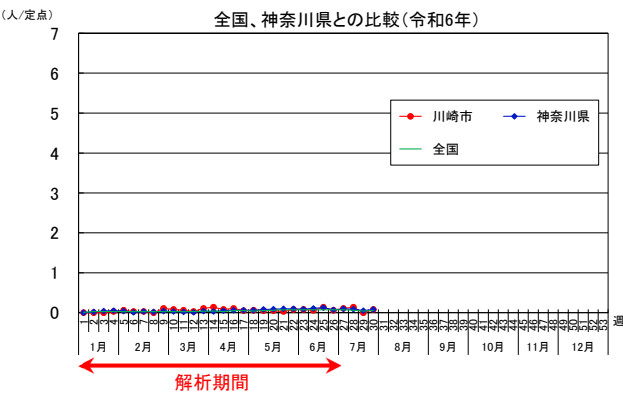
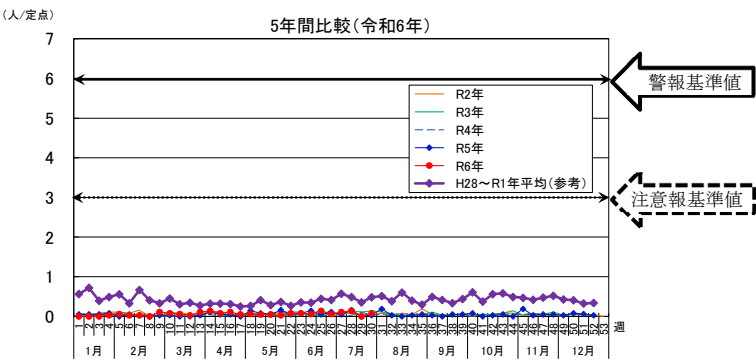


流行性耳下腺炎(警報基準値:定点当たり6人、注意報基準値:定点当たり3人)

【川崎市】

今期は定点当たり 0.06 人の報告があり、新型コロナウイルス感染症の流行前と比較する 0.15 倍で、例年よりかなり低いレベルで推移しました。

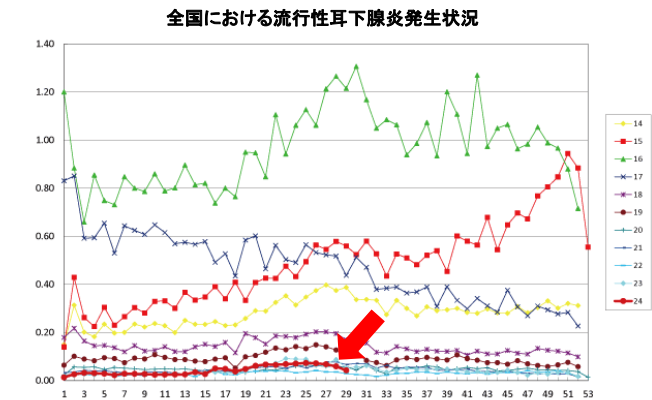
今期、流行発生警報基準値 (6) を超えた週はありませんでした。



なお、病原体定点からの検体の提供はありませんでした。

【全国及びその他】

全国的にも例年よりかなり低いレベルで推移しました。



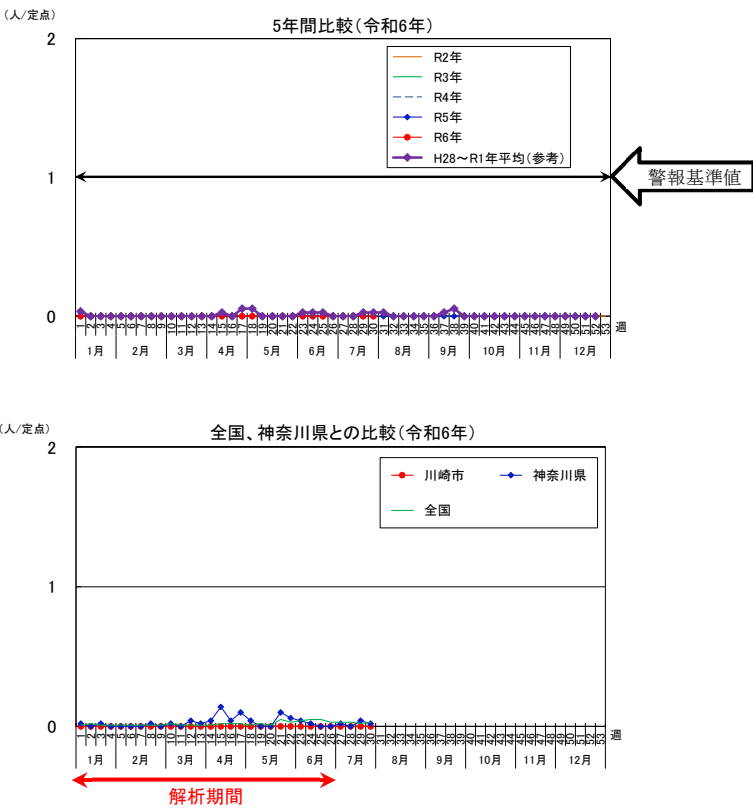
<眼科定点対象疾患>

※令和 2 年～令和 5 年は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、他疾患の報告数が通常と異なる傾向であったため、平成 28 年から令和元年の平均と比較を行った。

急性出血性結膜炎(警報基準値:定点当たり 1 人)

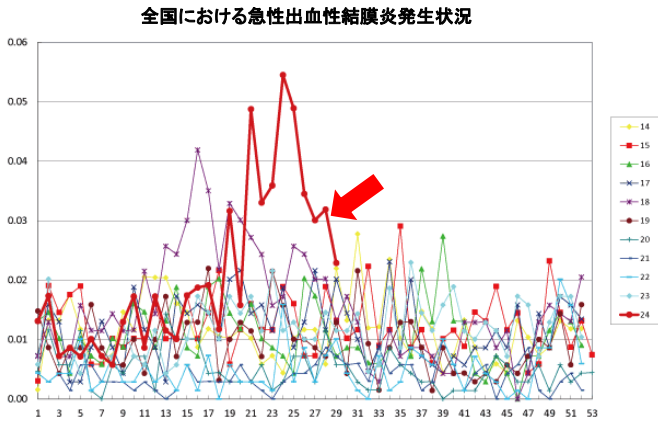
【川崎市】

今期は報告がありませんでした。



【全国及びその他】

全国的には例年より高いレベルで推移しました。



流行性角結膜炎(警報基準値:定点当たり 8 人)

【川崎市】

今期は定点当たり 1.27 人の報告があり、新型コロナウイルス感染症の流行前と比較すると 0.77 倍で、例年並みのレベルで推移しました。

今期、流行発生警報基準値（8）を超えた週は、多摩区で第 16 週及び第 27 週でした。

5年間比較(令和6年)

全国、神奈川県との比較(令和6年)

なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
川崎区	男	26	R6.4.29	眼脂	ヒトアデノウイルス 37 型

【全国及びその他】

全国的にも例年並みのレベルで推移しました。

全国における流行性角結膜炎発生状況

- 14 -

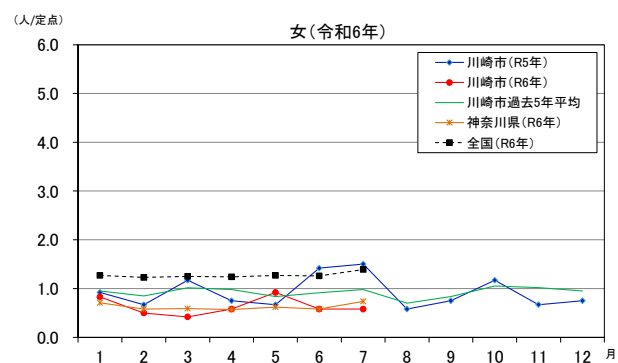
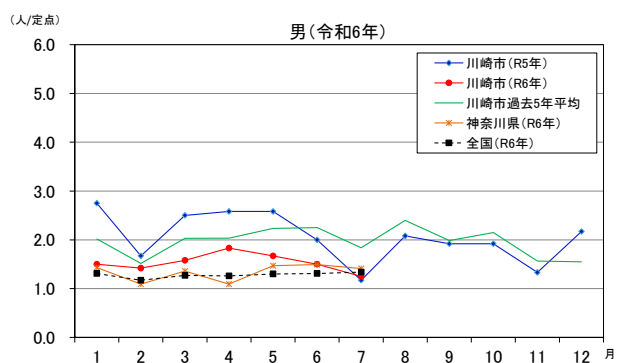
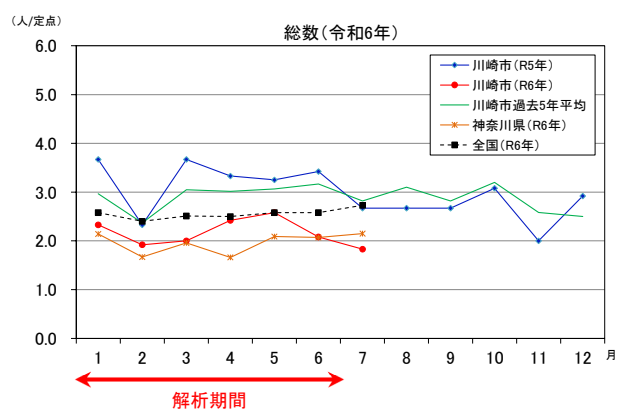
<性感染症定点対象疾患>

※新型コロナウイルス感染症が流行した令和2年から令和5年においても、報告数に変化がみられなかったため、過去5年平均と比較を行った。

性器クラミジア感染症

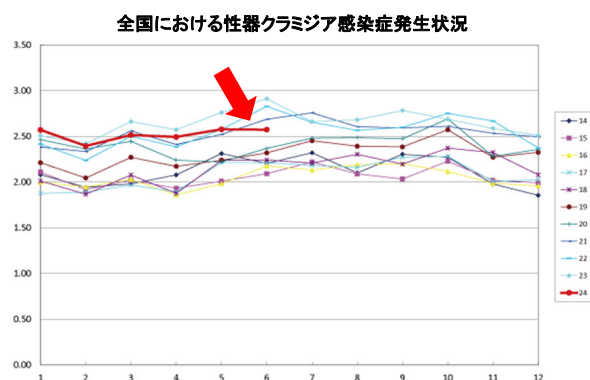
【川崎市】

今期は定点当たり2.22人の報告があり、過去5年平均の報告数と比較すると0.76倍で、例年よりやや低いレベルで推移しました。男性は4月、女性は5月に報告数が増加しました。



【全国及びその他】

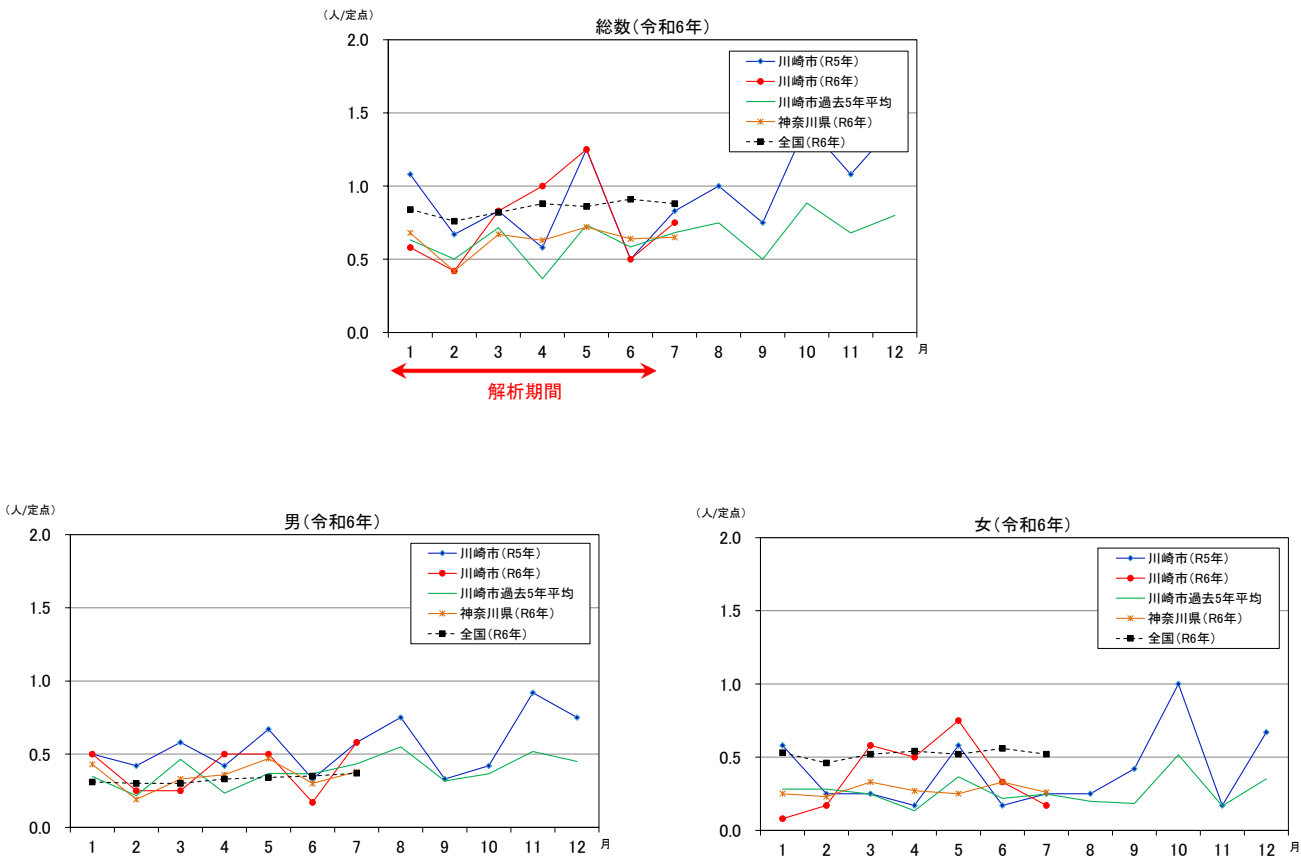
全国的には例年よりやや高いレベルで推移しました。



性器ヘルペスウイルス感染症

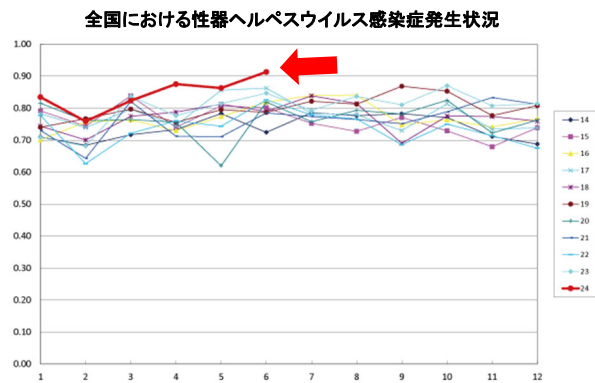
【川崎市】

今期は定点当たり 0.76 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 1.30 倍で、例年よりやや高いレベルで推移しました。男性は 1 月、4 月及び 5 月、女性は 3 月及び 5 月に報告数が増加しました。



【全国及びその他】

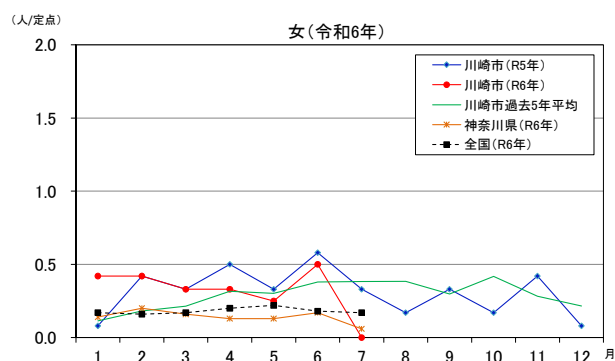
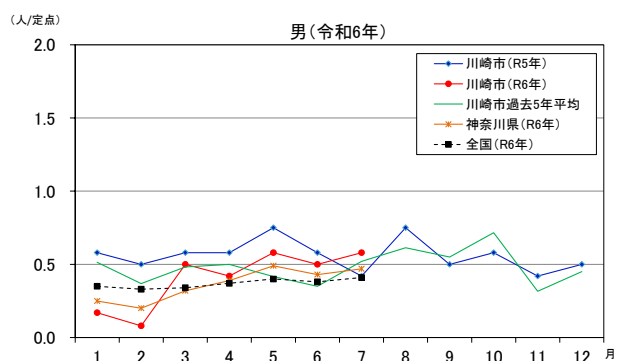
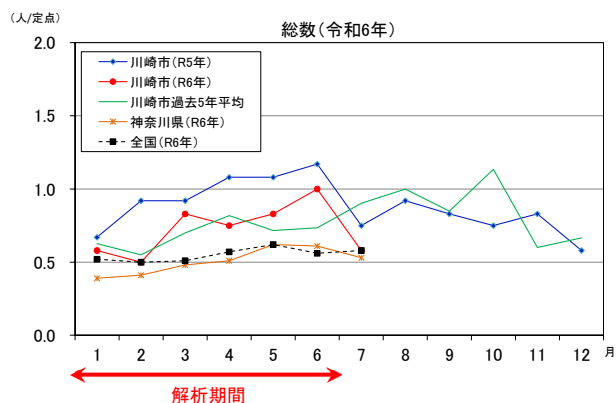
全国的には例年より高いレベルで推移しました。



尖圭コンジローマ

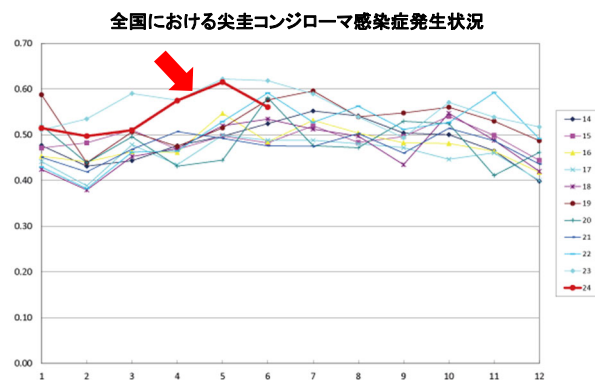
【川崎市】

今期は定点当たり 0.75 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 1.09 倍で、例年並みのレベルで推移しました。男性は 3 月及び 5 月、女性は 6 月に報告数が増加しました。



【全国及びその他】

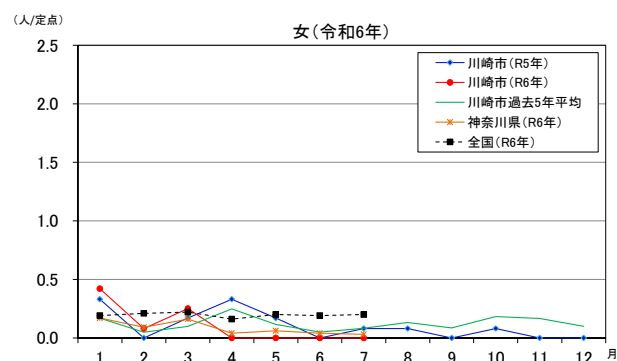
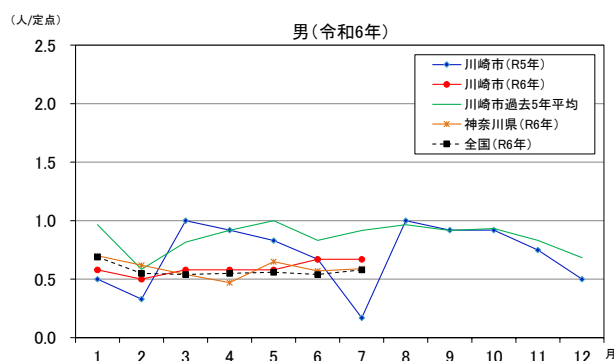
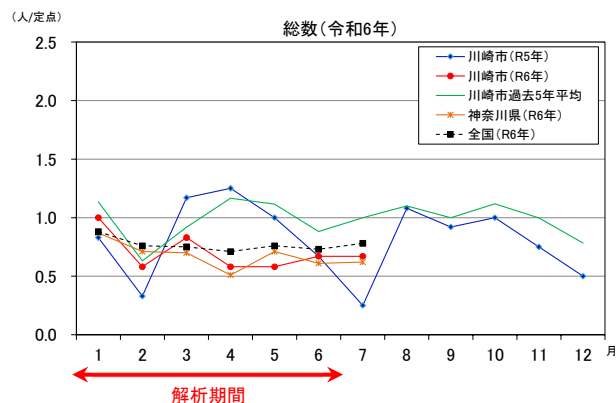
全国的には例年よりやや高いレベルで推移しました。



淋菌感染症

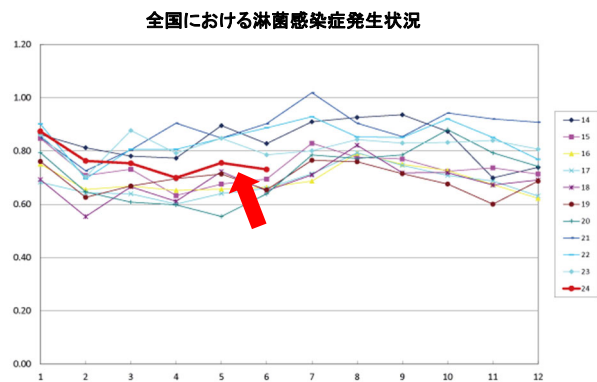
【川崎市】

今期は定点当たり 0.71 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.73 倍で、例年よりやや低いレベルで推移しました。男性は 6 月、女性は 1 月及び 3 月に報告数が増加しました。



【全国及びその他】

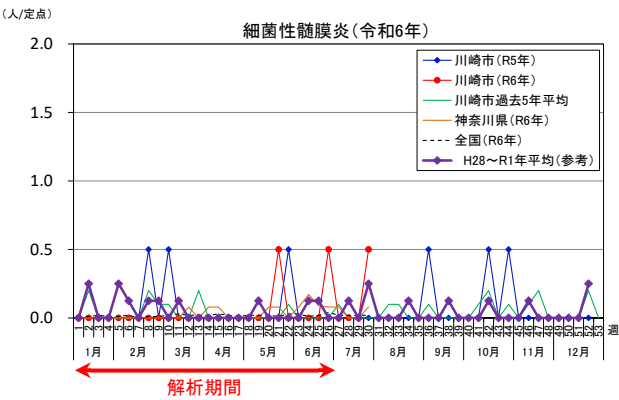
全国的には例年並みのレベルで推移しました。



細菌性髄膜炎

【川崎市】

今期は定点当たり 0.04 人の報告があり、新型コロナウイルス感染症の流行前と比較すると 0.73 倍で、例年よりやや低いレベルで推移しました。令和 6 年第 21 週及び第 26 週に各 1 件の報告がありました。

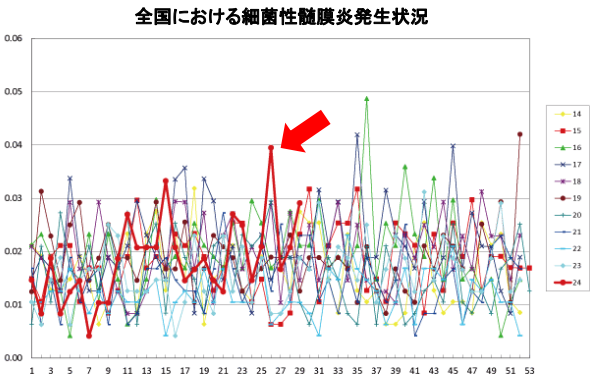


なお、検出された病原菌は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	届出週	検査材料	検査結果
川崎区	男	81	第 21 週	髄液	<i>Serratia marcescens</i>
宮前区	男	85	第 26 週	髄液	<i>Staphylococcus aureus</i>
川崎区	男	3 か月	第 30 週	髄液	<i>Staphylococcus gallolyticus pasteurianus</i>

【全国及びその他】

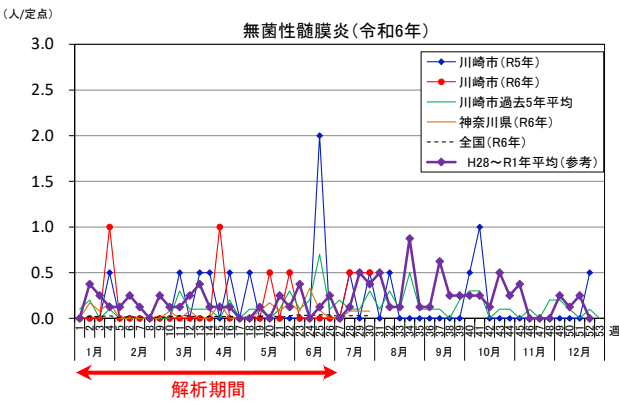
全国的には例年よりやや高いレベルで推移しました。



無菌性髄膜炎

【川崎市】

今期は定点当たり 0.12 人の報告があり、新型コロナウイルス感染症の流行前と比較すると 0.77 倍で、例年並みのレベルで推移しました。

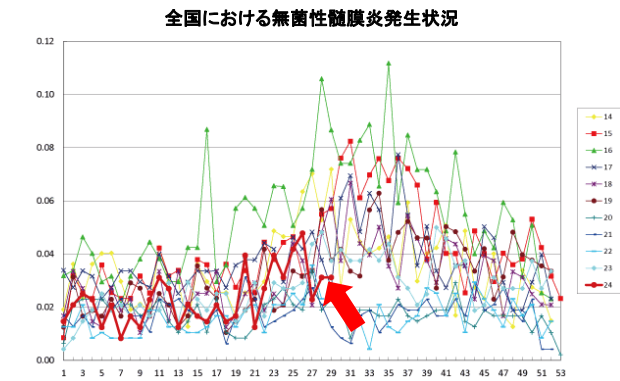


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
川崎区	女	48	R6.1.17	髄液	陰性
川崎区	男	27	R6.1.27	髄液	陰性
川崎区	男	0 か月	R6.3.5	髄液	陰性
			R6.3.5-6	血液	陰性
川崎区	女	25	R6.4.6	髄液	陰性
川崎区	女	49	R6.4.9	髄液	水痘・带状疱疹ウイルス
川崎区	男	6	R6.5.15	穿刺液(髄液)	陰性
川崎区	女	33	R6.5.13	髄液	陰性
川崎区	男	29	R6.7.8	髄液	陰性
川崎区	男	36	R6.7.19	髄液	水痘・带状疱疹ウイルス
宮前区	男	7	R6.7.22	髄液	検査中

【全国及びその他】

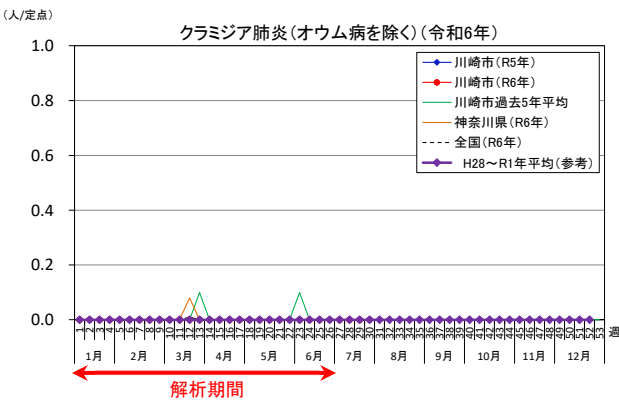
全国的にも例年並みのレベルで推移しました。



クラミジア肺炎(オウム病を除く)

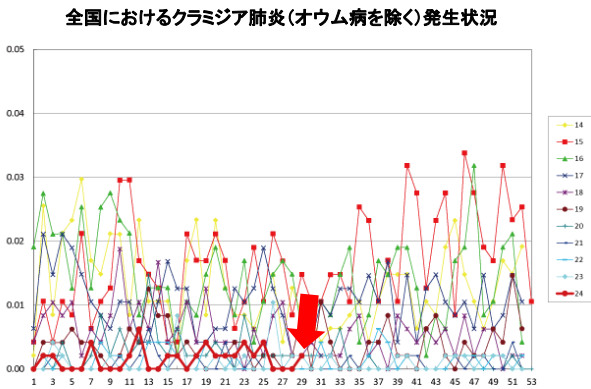
【川崎市】

今期は報告がありませんでした。



【全国及びその他】

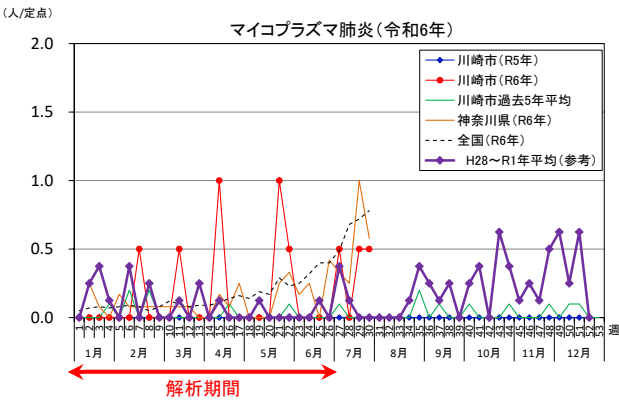
全国的にも例年より低いレベルで推移しました。



マイコプラズマ肺炎

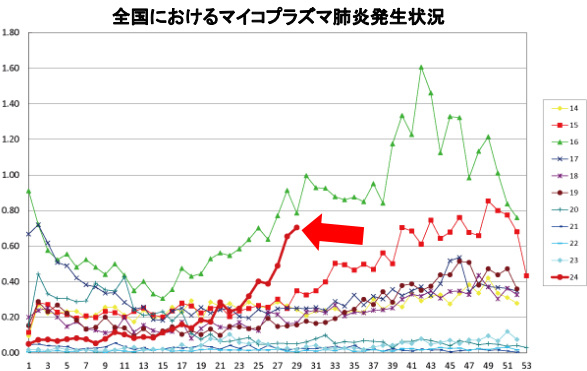
【川崎市】

今期は定点当たり 0.13 人の報告があり、新型コロナウイルス感染症の流行前と比較すると 1.58 倍で、例年より高いレベルで推移しました。



【全国及びその他】

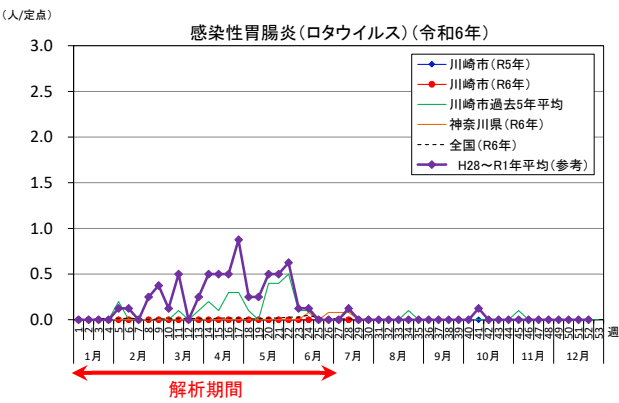
全国的にも例年より高いレベルで推移しました。



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

【川崎市】

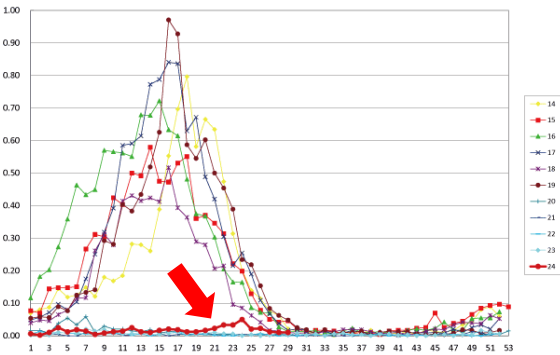
今期は報告がありませんでした。



【全国及びその他】

全国的にも例年よりかなり低いレベルで推移しました。

全国における感染性胃腸炎(ロタウイルス)発生状況



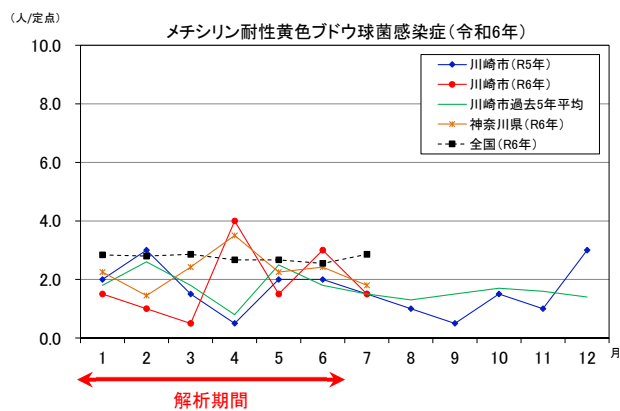
<基幹定点対象疾患（月報）>

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

※新型コロナウイルス感染症が流行した令和2年から令和5年においても、報告数に変化がみられなかったため、過去5年平均と比較を行った。

【川崎市】

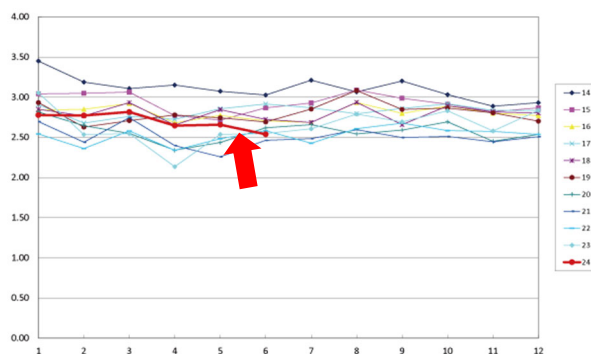
今期は定点当たり 1.92 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 1.02 倍で、例年並みのレベルで推移しました。



【全国及びその他】

全国的にも例年並みのレベルで推移しました。

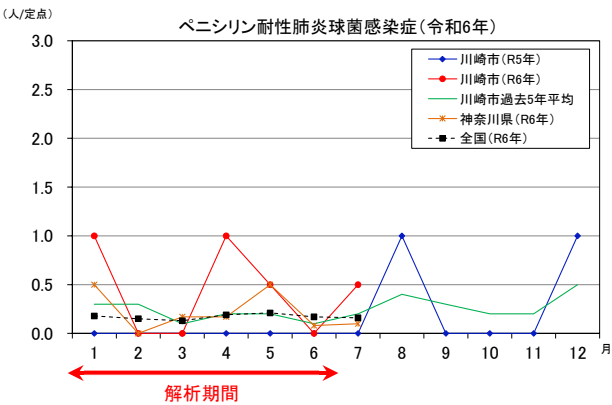
全国におけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症発生状況



ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

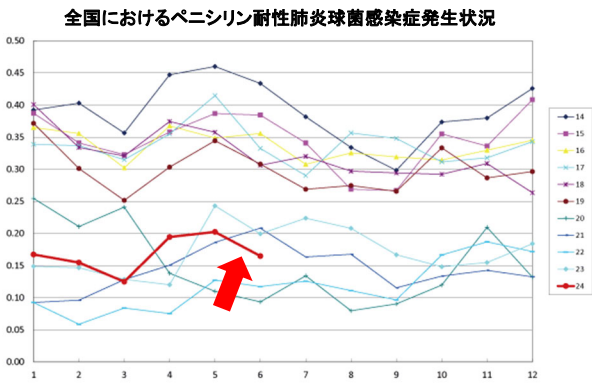
【川崎市】

今期は定点当たり 0.42 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 2.10 倍で、例年よりかなり高いレベルで推移しました。1 月及び 4 月に各 2 件、5 月に 1 件の報告がありました。



【全国及びその他】

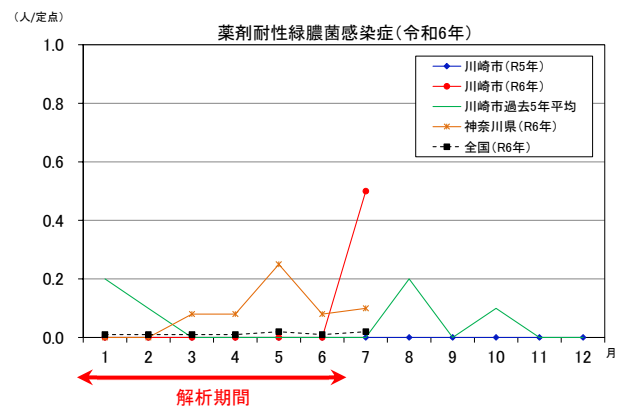
全国的には例年より低いレベルで推移しました。



薬剤耐性緑膿菌感染症

【川崎市】

今期は報告がありませんでしたが、7月に1件の報告がありました。



【全国及びその他】

全国的には例年よりやや低いレベルで推移しました。

